

## 第 4 章

令和 4 年度特別研究員の研究から

生徒・保護者の視点から見た就学先決定の手続き



## I. 調査目的

本調査の目的は、特別な支援を必要とする子ども、保護者が、就学先を検討した際の状況や思いを明らかにすることで、より良い就学先決定の方法について提言することである。

## II. 調査の方法

C市に在住する保護者、生徒を調査対象とし、2つの調査を実施した。

### 1. 保護者へのインタビュー調査

子どもが特別支援学級に在籍していた保護者5名を対象に、これまでどのように就学先を決定し、支援を受けてきたのかをインタビューによる調査を実施した。

インタビュー調査の内容は以下の通りである。

- (1) 子どもの学びの場について
- (2) 学びの場の変更の有無とその時の気持ち
- (3) 変更後の状況

### 2. 生徒へのアンケート調査及びインタビュー調査

A特別支援学校及びB特別支援学校の高等部生徒34名に対して就学先を決定する前後の状況や気持ちについて以下のアンケート調査及びインタビュー調査を実施した。

#### (1) アンケート調査内容

- ①小学校入学時の学びの場
- ②学びの場の変更の有無
- ③学びの場変更前の気持ち
- ④学びの場変更後の気持ち

#### (2) インタビュー調査内容

- ①小学校入学前や、入学時の様子
- ②学びの場を特別支援学級や特別支援学校にしたきっかけ
- ③学びの場を特別支援学級や特別支援学校にする前の思い
- ④学びの場変特別支援学級や特別支援学校にした後の思い

#### (3) 倫理的配慮

保護者及び生徒への調査を実施するにあたり、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所倫理審査部会に審査を申請し、許可を得て実施した。また、収集したデータは独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の規定の通り管理した。

### 3. 分析方法

アンケート調査は、単純集計結果を基に考察した。

インタビュー調査は、KHCoder-3（樋口：2019）を用いて、計量テキスト分析を行った。特徴づける語の抽出を行い、特徴語同士の共起関係をネットワーク図にする、共起ネットワークを描いた。描かれる共起関係（edge）の数が60程度になるよう設定して分析を行った。

## Ⅲ. 調査結果

### 1. 保護者インタビュー調査

#### （1）保護者が、子どもの学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更する前のインタビュー調査項目に関するテキスト分析

保護者が、子どもの学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更する前のインタビュー調査項目である「（1）子どもの学びの場について」「（2）学びの場の変更の有無とその時の気持ち」への回答に対するテキスト分析の結果、総抽出語数は2639語、異なり語数は555であった。この内、助詞や助動詞などの品詞を除き、分析に使用する語として1001語、異なり語数416語が抽出された。抽出語の出現回数として多かった語は、「言う」27、「小学校」22、「特別支援学級」17、「学校」「思う」16、「子ども」14、「担任の先生」10であった。出現回数が3以上の語を表1に示した。

表1 頻出語（保護者：学びの場変更前）

| 抽出語     | 出現回数 | 抽出語  | 出現回数 | 抽出語        | 出現回数 |
|---------|------|------|------|------------|------|
| 言う      | 27   | 今    | 5    | 言葉         | 3    |
| 小学校     | 22   | 保護者  | 5    | 個別の支援計画    | 3    |
| 特別支援学級  | 17   | 話    | 5    | 好き         | 3    |
| 学校      | 16   | IQ   | 4    | 在籍         | 3    |
| 思う      | 16   | 感じる  | 4    | 仕事         | 3    |
| 子ども     | 14   | 漢字   | 4    | 支援         | 3    |
| 担任の先生   | 10   | 決める  | 4    | 施設         | 3    |
| 行う      | 9    | 授業   | 4    | 自分         | 3    |
| 本人      | 9    | 書く   | 4    | 受ける        | 3    |
| 様子      | 9    | 障害   | 4    | 就学先        | 3    |
| 具体的     | 8    | 大変   | 4    | 就学前        | 3    |
| 先生      | 8    | 入る   | 4    | 宿題         | 3    |
| 感じ      | 7    | 納得   | 4    | 進路         | 3    |
| 行く      | 7    | 分かる  | 4    | 相談         | 3    |
| 親       | 7    | 聞く   | 4    | 通る         | 3    |
| 通級による指導 | 7    | 忘れる  | 4    | 難しい        | 3    |
| 通常の学級   | 7    | 友達   | 4    | 発達         | 3    |
| 伝える     | 7    | センター | 3    | 父親         | 3    |
| 入級      | 7    | 違う   | 3    | 母親         | 3    |
| 医者      | 6    | 家    | 3    | 放課後等デイサービス | 3    |
| 健診      | 6    | 眼科   | 3    | 落ち着く       | 3    |
| 情報      | 6    | 願い   | 3    | 療育         | 3    |
| 知る      | 6    | 気持ち  | 3    |            |      |
| 勉強      | 6    | 泣く   | 3    |            |      |
| 保育園     | 6    | 教える  | 3    |            |      |

## （２）学びの場変更前の共起ネットワーク

語と語のつながりを把握するために、共起の程度が強い語の共起ネットワークを作成した。言う、行うなどの動詞の表示を無しに設定し、分析したものを図1に示した。

共起ネットワークは、01「具体的」、02「障害」、03「先生」、04「本人」、05「親」、06「特別支援学級」の単語を含む6つのグループに分かれる結果となった。

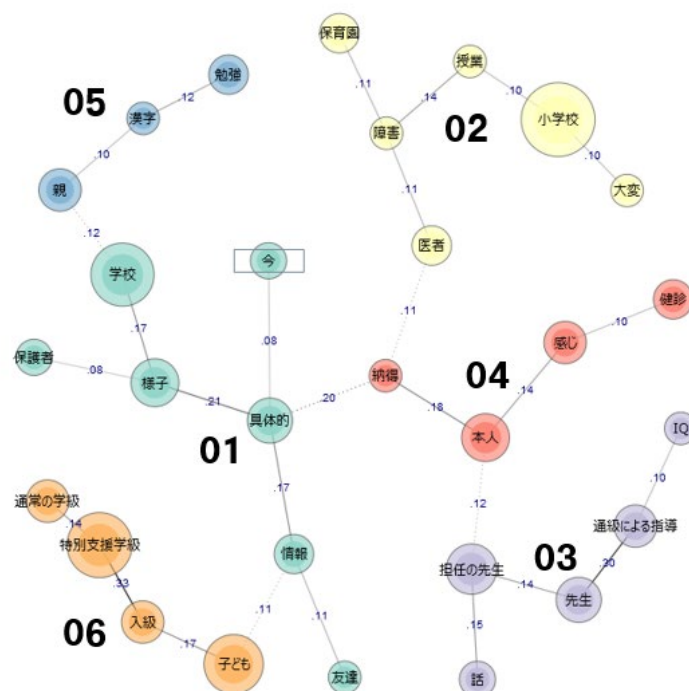


図1 学びの場変更前の共起ネットワーク（保護者）

### ①01 「具体的」を含むグループ『具体的な情報の必要性』

01「具体的」を含むグループでは、「具体的」「様子」「情報」等の関連があった。

「具体的」「様子」「情報」を含む原文では、「担任の先生ははっきりと言わないことが多かったので、子どもの様子を具体的に教えてほしかった。そのため、学校での様子がわからなかった。具体的な指導の様子なども聞きたかった。」「今となっては具体的に学校の様子を言ってもらった方がよかった。」など、保護者が子どもの学校の様子について知っておきたかったことが述べられていた。

また、学びの場を検討する際に「特別支援学級の様子などは自分から動いて情報を得た。」「父親は具体的に伝えないと納得しない。医者などの専門家に論理的に具体的に伝えてもらうことで徐々に父親が納得していった。就学先の予定の中学校の特別支援学級に聞くようにとのこと。」「特別な支援が必要な子どもの就職先の情報について

知りたかった。」など、就職先やその先の生活に関することまで具体的に知りたいという内容が述べられていた。

#### ②02「障害」を含むグループ『学びの場変更のきっかけ』

02「障害」を含むグループでは、「障害」「授業」「小学校」等の関連があった。

「障害」「授業」「小学校」を含む原文では、「出生後は病弱で心臓の穴がなかなか閉じなかった。その時に医者から『今後、何かしらの障害があるかもしれない』と言われていた。小学校1年生から小学校3年生の通常の学級在籍時に、授業中に泣いてしまっていた。」「小学校3年の時の担任の先生から『授業の妨げになる』『お子さんおかしいですよ。』』と言われた。授業中の様子から本人が落ち着いて過ごせばよいなと思い特別支援学級を選択した」など、医者からの言葉や、小学校時代の授業の様子などから、学びの場の変更のきっかけがあったことが述べられていた。

#### ③03「先生」を含むグループ『先生の寄り添い』

03「先生」を含むグループでは、「先生」「通級による指導」「担任の先生」等の関連があった。

「先生」「通級による指導」「担任の先生」を含む原文では、「通級による指導の先生からA特別支援学校の存在を聞いた。」等、通級による指導の教師が特別支援教育に関する情報提供を行っているエピソードが述べられていた。

また、「担任の先生は保護者の気持ちに寄り添えていた。」「担任の先生達、児童相談所の方、通級による指導の先生もがんばってねと言ってくれた。」という肯定的な捉えがある一方、「本人から家で話を聞くと、担任の先生の言うことがずれている感じがした。」「最初は、通級による指導の先生、相談員の先生、放課後デイサービスの先生などが何をいっているのかわからなかった。」など、担任をはじめとする先生、関係者の言動についてやや否定的な保護者の思いが述べられていた。

#### ④04「本人」を含むグループ『学びの場変更への納得』

04「本人」を含むグループでは、「本人」「納得」等の関連があった。ここでの「本人」とは保護者の子どものことである。

「本人」「納得」を含む原文では、「小学校6年生の時に通常の学級に在籍しながら、特別支援学級への体験を行った。本人は納得していない様子であった。」「本人は納得していない感じだった。同級生の保護者からコミュニケーションが取れるのになんで特別支援学級なのかと言われたことがあって。」など、なぜ学びの場を変更する必要があるのか、という子どもの思いについて述べられていた。

### ⑤05「勉強」を含むグループについて『保護者の子どもへの支援』

05「勉強」を含むグループでは、「漢字」「勉強」「親」の関連があった。

「漢字」「勉強」「親」を含む原文では、「小学校1年生の漢字の柀に入らないくらい字を大きく書いていた。眼科へ行ったら「何も異常はない。」と言われた。」「友達から「(授業中) 今日も泣いていたよ。」と伝えられて現状を知った。親としておかしいと感じた。」など、子どもの学校での様子や学習の困りへの気づきが述べられていた。

そして、「小学生のころ、一日5, 6時間、親がつきつきりで厳しく宿題やテスト勉強、漢字の勉強を行った。本人、親ともにとても辛い時期であった。」「徹底的に一緒に勉強を厳しく教えたが、ある時、自傷行為をしてしまうことがあった。」「身内からは勉強が苦手なことを、努力しないからだと言われていた。」など、学校での様子を知った保護者が家庭で行った子どもへの支援、保護者の努力について述べられていた。

### ⑥06「特別支援学級」を含むグループ『特別支援学級入級の理由』

06「特別支援学級」を含むグループでは、「特別支援学級」「入級」「子ども」の関連があった。

「特別支援学級」「入級」「子ども」を含む原文では、「宿題に対する抵抗感、パニックがあり、特別支援学級への入級を子どもと相談して決めた。」「IQの診断が70台であった。判定も特別支援学級であった。子どもは分からないまま特別支援学級へ入級したと思う。」「特別支援学級の入級のきっかけは、勉強についていけないため眼科にいって目が追い付いていないのではないかと検査をしたが、異常がなかった。」など、特別支援学級へ学びの場を変更するに至ったきっかけについて述べられていた。

## (3) 保護者が、子どもが学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更した後のインタビュー調査項目に関するテキスト分析

保護者が、子どもの学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更した後のインタビュー調査項目である「(3) 変更後の状況」への回答に対するテキスト分析の結果、総抽出語数は1286語、異なり語数は357であった。この内、助詞や助動詞などの品詞を除き、分析に使用する語として513語、異なり語数262語が抽出された。抽出語の頻出回数として多かった語は、「特別支援学級」18、「小学校」11、「A 特別支援学校」「高校」「思う」7、「言う」「生活」「先生」「保護者」6であった。出現回数が2以上の語を表2に示した。

表2 頻出語（保護者：学びの場変更後）

| 抽出語     | 出現回数 | 抽出語   | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---------|------|-------|------|-----|------|
| 特別支援学級  | 18   | 楽しい   | 3    | 困る  | 2    |
| 小学校     | 11   | 見る    | 3    | 産休  | 2    |
| A特別支援学校 | 7    | 就学前   | 3    | 社会  | 2    |
| 高校      | 7    | 身     | 3    | 集まる | 2    |
| 思う      | 7    | 担任の先生 | 3    | 宿題  | 2    |
| 言う      | 6    | 通常の学級 | 3    | 出す  | 2    |
| 生活      | 6    | 入級    | 3    | 将来  | 2    |
| 先生      | 6    | 変更    | 3    | 場所  | 2    |
| 保護者     | 6    | 勉強    | 3    | 通信制 | 2    |
| 運動      | 5    | 本人    | 3    | 定時制 | 2    |
| 学校      | 5    | 友達    | 3    | 日常  | 2    |
| 子ども     | 5    | 力     | 3    | 付く  | 2    |
| 親       | 5    | ペース   | 2    | 負担  | 2    |
| 分かる     | 5    | リズム   | 2    | 聞く  | 2    |
| 引継ぎ     | 4    | 感じる   | 2    | 目標  | 2    |
| 活動      | 4    | 頑張る   | 2    | 戻る  | 2    |
| 自分      | 4    | 機会    | 2    | 問題  | 2    |
| 多い      | 4    | 教える   | 2    | 良い  | 2    |
| 中学校     | 4    | 見学    | 2    | 話   | 2    |
| やり方     | 3    | 厳しい   | 2    | 話す  | 2    |
| 家       | 3    | 行う    | 2    |     |      |

#### （４）学びの場変更後の共起ネットワーク

学びの場を特別支援学級に決定した後の気持ちの共起ネットワークは、01「生活」、02「学校」03「小学校」、04「楽しい」、05「担任の先生」を含む6つのカテゴリーに分かれる結果となった（図2）。

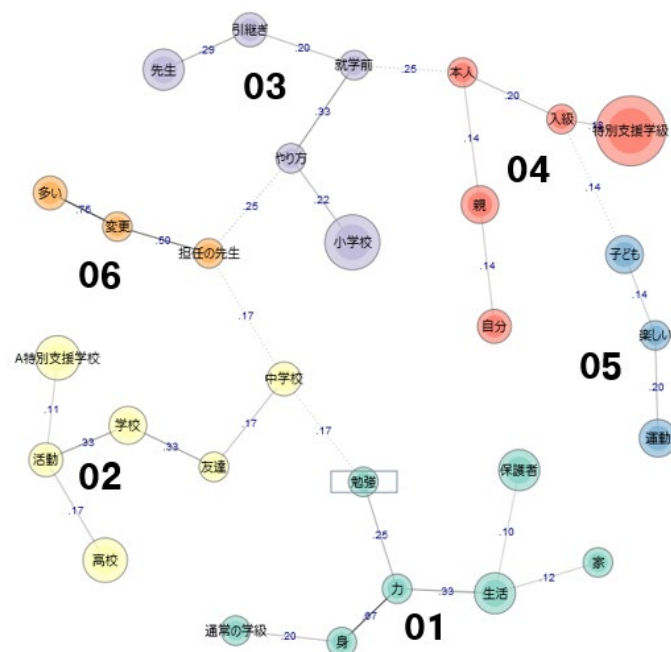


図2 学びの場変更後 共起ネットワーク

### ①01「生活」を含むグループ『特別支援学校で身に付いた力』

01「生活」を含むグループでは、「生活」「力」「勉強」「身（に付く）」等の関連があった。

「力」「身（に付く）」「生活」「勉強」を含む原文では、「日常生活の力など勉強以外の力が身に付いた。」「もっと勉強をさせたかった。」など、特別支援学級において子どもに身に付いた力、身に付けてほしい力について述べられていた。

### ②02「学校」を含むグループ『学校での充実感』

02「学校」を含むグループでは、「学校」「活動」「友達」等の関連があった。

「学校」「活動」「友達」を含む原文では、「（特別支援学級では）リーダー的になり、生き生きとしていた。学校のことを話すようになった。」など学びの場変更後の学校での子どもの様子や、「（高等部1年時）一度学校を辞めたいと言い出した。中学校の友達がバイトなどを精力的に活動していた中、A 特別支援学校は新型コロナウイルス感染症の影響で期待していた活動ができていなかったことなど、学校生活に不安を感じてのこと。学校の活動が徐々に再開されてからは、そういったこと（学校を辞めたいことなど）を言うことがなくなった。」「特別支援学級では、学校で起きた友達間の問題について納得がいかないままだった。」「中学校の特別支援学級では、教科担任制で勉強を学ぶことができて充実していた。友達もできた。」など、友人関係について述べられていた。

### ③03「小学校」を含むグループ『切れ目ない支援について』

03「小学校」を含むグループは、「小学校」「やり方」「就学前」「引継ぎ」「先生」の関連があった。

「小学校」「やり方」「就学前」「引継ぎ」「先生」を含む原文では、「就学前は本人のペースで行っていて保育園の先生は一生懸命引継ぎの資料を作ってくれたが、小学校の先生なりのやり方がある。」「就学前のやり方と小学校ではやり方が違うので小学校の担任の先生は就学前のことを聞きたくないらしい。」「学年とか学校で引継ぎがなされていた。」「小学校から中学校の引継ぎもなかったのでは。」など、就学前施設や小学校から次の進学先への引継ぎについて述べられていた。

### ④04「特別支援学級」を含むグループ『特別支援学級での子どもの変化』

04「特別支援学級」を含むグループでは、「本人」「入級」「特別支援学級」等の関連があった。

「入級」「本人」「特別支援学級」を含む原文では、「特別支援学級は、個性的な生徒が多かった。クラスメイトが負けず嫌いで、本人に負けたくないため意地悪をされていた。」「特別支援学級へ行き、心と時間にゆとりができた。」「特別支援学級での居心地

は良かったと思う。」「特別支援学級時代に通常の学級に戻りたいということとはなかった。」など、保護者から見た、特別支援学級入級後の子どもの様子について述べられていた。

#### ⑤05「楽しい」を含むグループ『学びの場の魅力』

05「楽しい」を含むグループでは、「楽しい」「運動」「子ども」の関連があった。

「楽しい」「運動」「子ども」を含む原文では、「運動もたくさんでき、楽しそうだった。」「子ども達が楽しくやっている場面をみて安心した。」「(A 特別支援学校は) 運動場や体育館があり、体力づくりがあることに魅力があり、運動することを優先し選択した。」など、特別支援学級や特別支援学校での子どもが楽しそうにしている様子や、施設、活動について述べられていた。

#### ⑥06「担任の先生」を含むグループ『特別支援学級における担任の変更』

06「担任の先生」を含むグループでは、「多い」「変更」「担任の先生」の関連があった。

「変更」「多い」「担任の先生」を含む原文では、「中学の特別支援学級では産休等の関係で担任の先生との変更が多かった。」「産休になる先生と戻る先生とで変更が多く困ってしまった。専門性の高い先生に育てて欲しい。」など、特別支援学級における担任の先生の変更の多さについて述べられていた。

# (5) 保護者と子どもが決定してきたこれまでの学びの場

保護者インタビュー調査より聞き取った、これまでの子どもの学びの場を表3に示した。

表3 これまでの子どもの学びの場

|                            | 新生児期<br>乳幼児期 | 幼児期              |        |        | 小学校        |        |    |        |               |        | 中学校            |            |            | 高校         |
|----------------------------|--------------|------------------|--------|--------|------------|--------|----|--------|---------------|--------|----------------|------------|------------|------------|
|                            | 年齢<br>0歳～3歳  | 年少               | 年中     | 年長     | 小1         | 小2     | 小3 | 小4     | 小5            | 小6     | 中1             | 中2         | 中3         | 高1～高3      |
| 保<br>護<br>者<br>取<br>り<br>の | A            | 保育所 療育 医療        |        |        | 特別支援学級(知的) |        |    |        |               |        |                |            |            | 特別支援学校(知的) |
|                            | B            | 保育所 療育           | 幼児言語教室 |        | 通常の学級      |        |    | 通級(発達) |               |        | 特別支援学級(知的)※学区外 |            |            | 通信制高校      |
|                            | C            | 保育所              |        |        | 通常の学級      | 通級(言語) |    |        | 特別支援学級(知的)※転校 |        |                |            |            | 特別支援学校(知的) |
|                            | D            | 医療 小児科 保育所       |        |        | 通常の学級      |        |    | 通級(発達) | 特別支援学級(情緒)    |        | 特別支援学級(知的)     |            | 特別支援学校(知的) |            |
|                            | E            | 医療(リハビリ) 小児科 保育所 |        | 幼児言語教室 | 通常の学級      |        |    |        |               | 体験(特学) |                | 特別支援学級(知的) |            | 特別支援学校(知的) |

Aは、就学前に医療、療育と関わっており、小学校1年生から特別支援学級に在籍している。B、Eは、療育や幼児言語教室に通い、就学先は通常の学級だったが、その後、特別支援学級に学びの場を変更している。C、Dは、通常の学級への就学から、通級指導教室、特別支援学級（自閉症・情緒障害）、特別支援学級（知的障害）と学びの場を変更している。今回、調査対象とした保護者5名の子どもだけでも、様々な支援や学びの場を経て今に至っていることが明らかになった。

## 2. 生徒アンケート調査

### (1) 入学時の学びの場について

アンケート調査内容「①入学時の学びの場」について回答した 34 名の内、小学校入学時の学びの場は、「通常の学級」22 名、「特別支援学級」12 名、「特別支援学校」は 0 人であった。

### (2) 学びの場の変更の有無について

アンケート調査内容「②学びの場の変更の有無」について回答した 34 名の内、中学校卒業までに学びの場を変更した生徒は 23 名（68%）、学びの場を変更しなかった生徒は 11 名（32%）であった（図 3）。

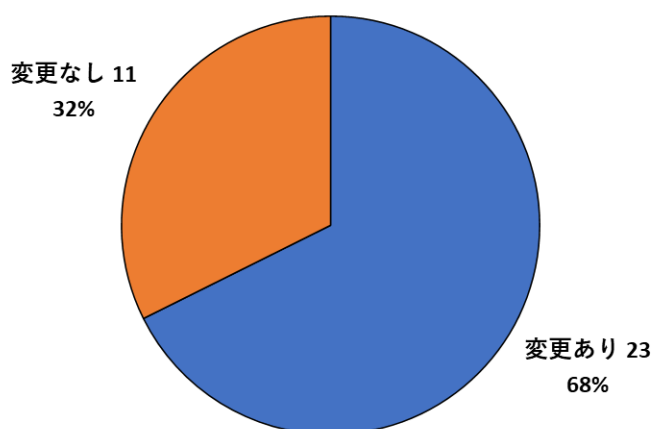


図 3 学びの場の変更の有無 (n=34)

### (3) 小学校 1 年生から中学校 3 年生までの学びの場の変更について

アンケート調査内容「②学びの場の変更の有無」の回答において、小学校入学時に「通常の学級」へ就学した生徒 22 名のうち、学びの場を変更せず「通常の学級」であった生徒は 1 名、「特別支援学級」へ変更した生徒は 20 名、「特別支援学校」へ変更した生徒は 1 名であった。

小学校入学時に「特別支援学級」へ就学した生徒 12 名のうち、学びの場を変更せず「特別支援学級」であった生徒は 10 名、「特別支援学校」へ変更した生徒は 2 名、「通常の学級」へ変更した生徒は 0 名であった（図 4）。

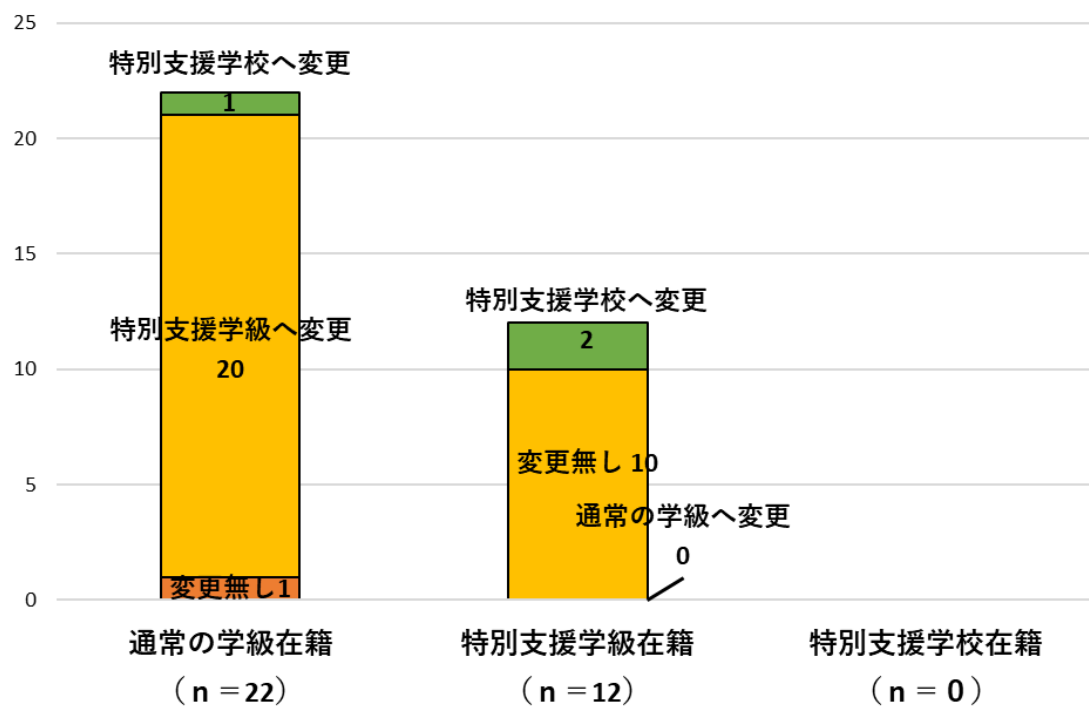


図 4 小学校入学時の学びの場と変更の有無

#### (4) 学びの場変更前の気持ちについて

アンケート調査内容「③学びの場変更前の気持ち」について回答した、学びの場を変更した生徒 23 名のうち、「変えたくなかった」12 名 (52%)、「変えたかった」6 名 (26%)、「どちらでもない」5 名 (22%) であった (図 5)。

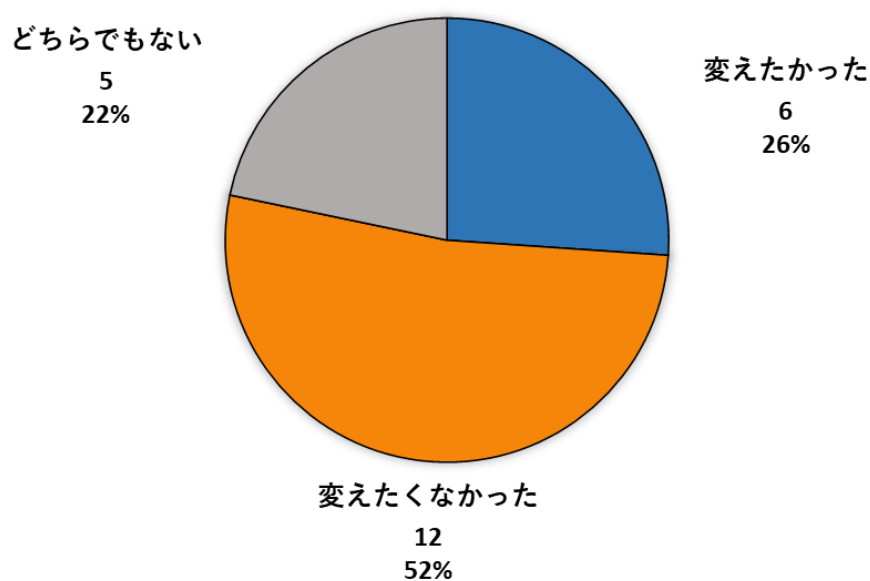


図 5 学びの場変更前の気持ち (n=23)

「変えたかった」と回答した生徒 6 名全員が、その理由を記述している。内容は、「いじめを受けていた」「授業が難しくてわからなかった」「人と話そうとしたときに、遠慮をして話せなかった」「年度の途中でも、早く変えてほしかった」「そのまま中学校へ行くのは難しい」などであった。

「変えたくなかった」と回答した生徒 12 名のうち、理由の記述があったのは 11 名であった。内容は「通常の学級の仲間に入れないのではないか」「友達と離れて話しくらくなる」「体験はしたけれど、特別支援学級について詳しく知らなかった」「今後のことがわからなくて不安だった」、「特別支援学級に良いイメージがなかった」「バカにされる不安があった」「通常の学級より下に置かれる」などであった。

「どちらでもない」と回答した 5 名のうち、理由の記述があったのは 3 名であった。内容は「通常の学級に普通に通えたので、そんなに違いがない」「転校して特別支援学級へ入ったので、あまり変な気持ちにならなかった」などであった。

#### （５）学びの場変更後の気持ちについて

アンケート調査内容「④学びの場変更後の気持ち」について回答した、学びの場を変更した 23 名のうち、「変えてよかった」14 名（61%）、「変えなければよかった」2 名（9%）、「どちらでもない」7 名（30%）であった（図 6）。

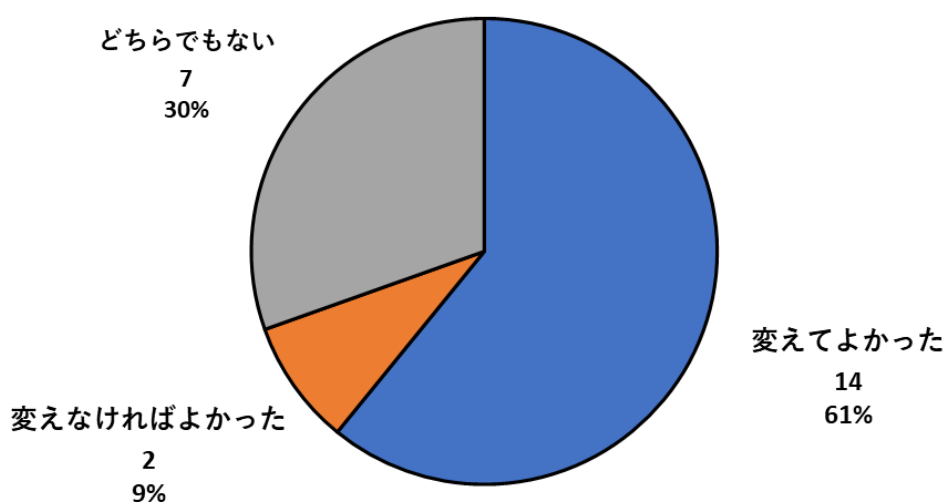


図 6 学びの場変更後の気持ち（n=23）

## （６）学びの場変更前後の気持ちの変化について

学びの場変更前の気持ちについて「変えたくなかった」と回答した生徒12名のうち、学びの場変更後の気持ちについて「変えてよかった」と回答した生徒は7名、「どちらでもない」と回答した生徒は5名であった。

学びの場変更前の気持ちについて「変えたかった」と回答した生徒6名のうち、学びの場変更後の気持ちについて「変えてよかった」と回答した生徒は5名、「どちらでもない」と回答した生徒は1名であった。

学びの場変更前の気持ちについて「どちらでもない」と回答した生徒4名のうち、学びの場変更後の気持ちについて「変えて良かった」と回答した生徒は2名、「どちらでもない」と回答した生徒は1名、「変えなければよかった」と回答した生徒は2名であった（図7）。各理由についての自由記述を表4に示した。

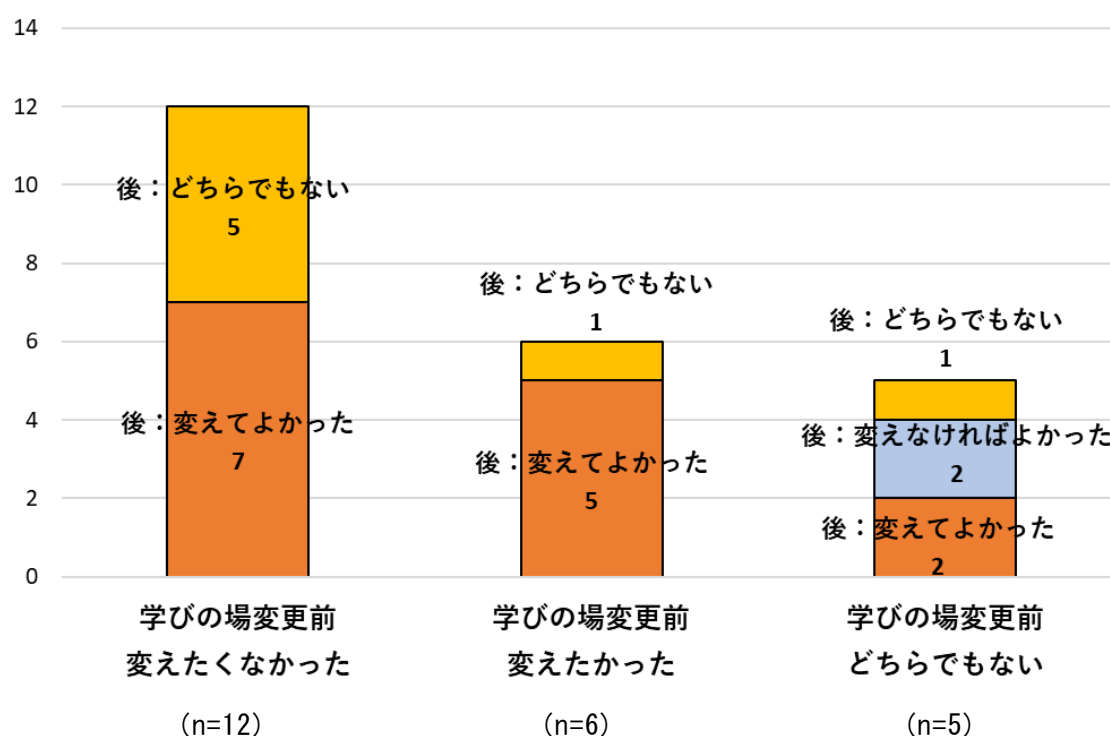


図7 学びの場変更前後の気持ちの変化

表 4 学びの場変更後の気持ちの変化について（一部抜粋）

|     |            | 変更前                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                |                                                                                     |
|-----|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|     |            | 変えたくなかった                                                                                                                                                                                            | 変えたかった                                                                                                                                                                                         | どちらでもない                                                                             |
| 変更後 | 変えてよかった    | 7名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達ができた。</li> <li>・人の気持ちがわかるようになった。今まで辛かったのが、辛い思いをしなくて済むのは良かった。</li> <li>・自分の良さに気づいた。</li> <li>・生きる楽しさを思い出した。先生や仲間が優しく接してくれた。</li> <li>・友達がいた。</li> </ul> | 5名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな出会いがあった。</li> <li>・他の人や先生に話せるようになった。</li> <li>・いじめを受けることがなくなったし、授業もわかりやすく教えてくれたり、黒板やホワイトボード等で教えてくれたりした。</li> <li>・たくさん教えてもらえてうれしかった。</li> </ul> | 2名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースで授業ができて良かった。</li> </ul>            |
|     | どちらでもない    | 5名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い面もあり、悪い面もあった。</li> <li>・教育が遅いなと思った。</li> <li>・勉強をもっとしたかった。</li> <li>・友達と離れたけど、新しい友達ができた。</li> <li>・授業が楽しかった。</li> </ul>                                | 1名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述なし</li> </ul>                                                                                                                                     | 1名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述なし</li> </ul>                          |
|     | 変えなければよかった | 0名                                                                                                                                                                                                  | 0名                                                                                                                                                                                             | 2名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達ができない。</li> <li>・特別扱いが嫌だった。</li> </ul> |

### 3. 生徒インタビュー調査

#### (1) 生徒の学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更する前のインタビュー調査項目に関するテキスト分析

生徒の学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更する前のインタビュー調査項目である「①小学校入学前や、入学時の様子」「②学びの場を特別支援学級や特別支援学校にしたきっかけ」「③学びの場を特別支援学級や特別支援学校にする前の思い」への回答に対するテキスト分析の結果、総抽出語数は 666 語、異なり語数は 182 語であった。このうち、助詞や助動詞などを除き、分析に使用する語として 268 語、異なり語数 129 語が抽出された。抽出語の出現回数として多かった語は、「思う」「特別支援学級」「特別支援学校」 9、「見学」 8、「言う」「行く」「自分」 7であった。出現回数が 3 以上の語を表 5 に示した。

表 5 頻出語（生徒：学びの場変更前）

| 抽出語    | 出現回数 | 抽出語     | 出現回数 |
|--------|------|---------|------|
| 思う     | 9    | A特別支援学校 | 3    |
| 特別支援学級 | 9    | イジメ     | 3    |
| 特別支援学校 | 9    | 家       | 3    |
| 見学     | 8    | 子       | 3    |
| 言う     | 7    | 障害      | 3    |
| 行く     | 7    | 辛い      | 3    |
| 自分     | 7    | 地域      | 3    |
| 小学校    | 6    | 中学校     | 3    |
| 通常の学級  | 5    | 仲間      | 3    |
| 勉強     | 5    | 同級生     | 3    |
| 進学     | 4    | 普通      | 3    |
| 人      | 4    | 友達      | 3    |
| 先生     | 4    |         |      |

#### (2) 学びの場変更前の共起ネットワーク

語と語のつながりを把握するために、共起の程度が強い語の共起ネットワークを作成し、分析したものを図 8 に示した。

共起ネットワークは、01「特別支援学級」、02「自分」、03「小学校」、04「障害」、05「A特別支援学校」、06「辛い」、07「特別支援学校」の単語を含む 7 つのグループに分かれる結果となった。

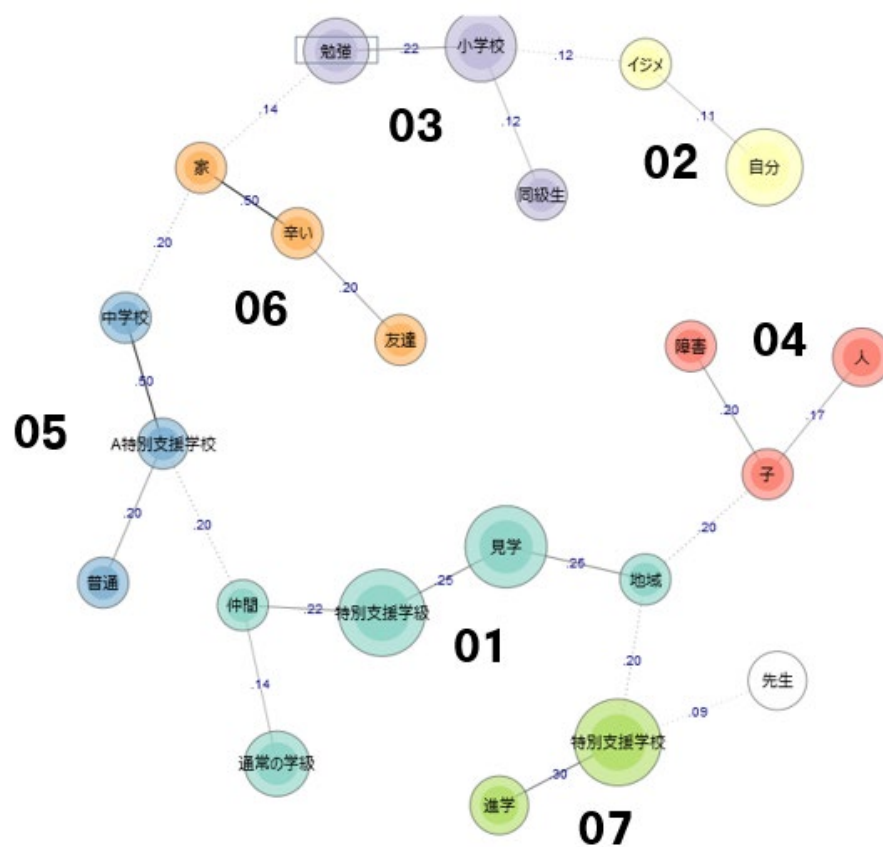


図8 学びの場変更前 共起ネットワーク（生徒）

### ①01「特別支援学級」を含むグループ『学びの場変更に向けた手続きに対する不安』

01「特別支援学級」を含むグループでは「特別支援学級」「見学」「地域」「仲間」「通常の学級」等の関連があった。

「特別支援学級」「見学」「仲間」「地域」「通常の学級」を含む原文では、「地域の特別支援学級を見学した時は治安が悪い感じがした。」「見学に行って、地域の特別支援学校は障害の重い子がいて、関わりが難しそうだった。」「A 特別支援学校については見学をしたけれど、どういう学びで、どのような仲間がいて、どんな進路があるのかは知らなかった。」「特別支援学級の仲間は、どうせわけがわからないことを言っているのではと思った。」など、学びの場を変更する事への心配や不安について述べられていた。

また、「みんなから嫌われていたので、特別支援学級に入ったら、通常の学級の仲間に入れてもらえず、無視が当たり前になり、今よりもひどくなるのではないかと思った。」「自分が通常の学級の人達よりも、下に置かれることで不安を感じ、脱落したように思った。」「通常の学級の人達から差別されないか心配であった。」など、学びの場を変更した後の仲間とのかかわりへの心配や不安についても述べられていた。

### ②02「自分」を含むグループ『通常の学級在籍時の出来事』

02「自分」を含むグループでは、「自分」「イジメ」等の関連があった。

「自分」「イジメ」を含む原文では、「イジメとか、周囲の自分への当たりが辛かった。」「小学校でイジメがあったので、環境を変えて新しくしたかった。」「持久走の時間に自分だけゴールが遅くて、途中で終わらされてしまった。」「事件を起こしてしまった時に、相手が悪くても自分が責められることがあった。」など、通常の学級に在籍時の出来事や思いについて述べられていた。

### ③03「小学校」を含むグループ『小学校時代のことがら』

03「小学校」を含むグループでは、「小学校」「勉強」等の関連があった。

「小学校」「勉強」「同級生」を含む原文では、「小学校3、4年生の頃から勉強が辛くなった。」「小学校1年生から勉強ができていないことが多く、母親に叱られる毎日だった。」など、勉強に関することがらや、「小学校5年生になってからも、主に同級生と喧嘩していた。」「小学校で通常の学級に居た時は、心に穴が開いていた。」「小学校のときもあったかもしれないが、小学校の時は心が不安定な時期であったので周囲のやさしさに気づけなかった。」など、通常の学級の仲間との関わりについてなどの、小学校時代のことがらについて述べられていた。

#### ④04「障害」を含むグループ『自分の障害と他の人の障害に対する認識』

04「障害」を含むグループでは、「障害」「子」等の関連があった。

「障害」「子」を含む原文では、「見学に行って、地域の特別支援学校では、障害の重い子がいてかかわりが難しそうだった。」など、障害のある他の人に対する思いや、「どこかの施設でパズルなどの検査をして、病院で知的障害と診断された。」「自分が障害を持っているということも悔しい思いだった。」「先生達にはわからない子（自分）にも支援をしてほしかった。」など、自分の障害についての心境が述べられていた。

#### ⑤05「A 特別支援学校」を含むグループ『高等学校への進学』

05「A 特別支援学校」を含むグループでは「A 特別支援学校」「中学校」等の関連があった。

「A 特別支援学校」「中学校」「普通」を含む原文では、「A 特別支援学校は、中学校と同じで一見普通の人達で、環境に慣れやすいと思った。」「中学校の面談で、高校への進路について地域の特別支援学校か、A 特別支援学校を提示された。」「A 特別支援学校については見学をしたけれど、どういう学びで、どんな仲間がいて、どんな進路があるのか知らずに入った。」など、A 特別支援学校への進学の理由や思いについて述べられていた。

#### ⑥06「辛い」を含むグループ『学びの場変更前の辛い気持ち』

06「辛い」を含むグループでは、「辛い」「家」「友達」の関連があった。

「家」「辛い」「友達」を含む原文では、「小学校3，4年生の頃から勉強が辛くなった。」「家での学習では、父親に怒鳴られて辛かった。」など、通常の学級在籍中における学習に対する辛さや、「5年生では、仲の良い友達がいたため辛くなかったが、6年生になってクラス分けで学級が分かれてしまい、家にいる時以外は誰とも話さなかった。」「辛い思いをしなくて嬉しい気持ちと、今まで一緒にいた友達ともう話せない悲しい気持ちで複雑だった。」など、仲間関係についての辛さが述べられていた。

#### ⑦07「特別支援学校」を含むグループ『特別支援学校への進路決定』

07「特別支援学校」を含むグループでは、「特別支援学校」「進学」の関連があった。

「特別支援学校」「進学」を含むグループの原文では、「特別支援学校には進学しなかった。」「自分の中学は特別支援学級がなかったので、担任の先生も特別支援学校へ生徒を進学させるのは初めてだった。」「みんなに特別支援学校へ進学するとは言えなかった。」など、特別支援学校に進路を決定する際の思いについて述べられていた。

(3) 生徒の学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更した後のインタビュー調査項目に関するテキスト分析

生徒の学びの場を通常の学級から特別支援学級へ変更した後のインタビュー調査項目である「④学びの場を特別支援学級や特別支援学校にした後の思い」への回答に対するテキスト分析の結果、総抽出語数は 668 語、異なり語数は 205 語であった。このうち、助詞や助動詞などを除き、分析に使用する語として 255 語、異なり語数 140 語が抽出された。抽出語の頻出回数として多かった語は、「思う」10、「自分」「特別支援学級」8、「楽しい」5 であった。出現回数が 2 以上の語を表 6 に示した。

表 6 頻出語（生徒：学びの場変更後）

| 抽出語    | 出現回数 | 抽出語  | 出現回数 |
|--------|------|------|------|
| 思う     | 10   | 学年   | 2    |
| 自分     | 8    | 厳しい  | 2    |
| 特別支援学級 | 8    | 後輩   | 2    |
| 楽しい    | 5    | 荒れる  | 2    |
| クラスメイト | 4    | 行う   | 2    |
| 子      | 4    | 合わせる | 2    |
| 特別支援学校 | 4    | 授業   | 2    |
| いろいろ   | 3    | 少人数  | 2    |
| 学級     | 3    | 生徒   | 2    |
| 気持ち    | 3    | 先生   | 2    |
| 小学校    | 3    | 多い   | 2    |
| 先輩     | 3    | 通常   | 2    |
| 通常の学級  | 3    | 土日   | 2    |
| 変える    | 3    | 入学   | 2    |
| 変わる    | 3    | 面    | 2    |
| 良い     | 3    | 友達   | 2    |
| 一緒     | 2    |      |      |

#### （４）学びの場変更後の共起ネットワーク

語と語のつながりを把握するために、共起の程度が強い語の共起ネットワークを作成し、分析したものを図 9 に示した。

共起ネットワークは、01「楽しい」、02「自分」、03「クラスメイト」、04「特別支援学校」、05「通常の学級」、06「学級」の単語を含む 6 つのグループに分かれる結果となった。

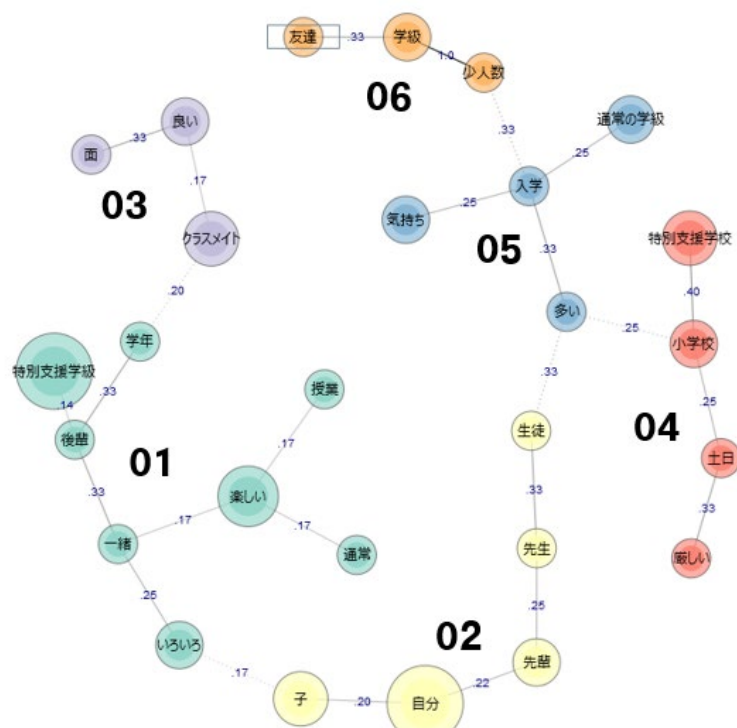


図 9 学びの場変更後 共起ネットワーク（生徒）

### ①01「楽しい」を含むグループ『学びの場変更後の楽しさ』

01「楽しい」を含むグループの原文では、「一緒」「楽しい」「授業」「通常」「いろいろ」等の関連があった。

「一緒」「楽しい」「授業」「通常」「いろいろ」を含む原文では、特別支援学級では、「3学年で一緒に活動をしていたので、作業学習の時間などに、後輩に仕事のやり方を教えることがあった。」「いろいろな障害をもっている子がいて、人間関係が難しいと思った。」「クラスメイトと一緒にいろいろなことをやって楽しくなった。」「特別支援学級は優しい子達がたくさんいる。いろいろな経験もできた。」「生きる楽しさや喜びを味合わせてくれた。」など、学びの場変更後の多様な学年と個性のある仲間との関わりや、一緒に活動を行う楽しさについて述べられていた。

また、「特別支援学校はもっと教科の授業を加えた方が楽しいのではないかと思う。」「通常の高校へ行っていたらもっと幅広く楽しいことができたのではないかと思う。」など、学びの場変更後の授業などについてのニーズも述べられていた。

### ②02「自分」を含むグループ『環境の変化と自己肯定感の高まり』

02「自分」を含むグループの原文では、「先生」「生徒」「先輩」「自分」の関連があった。

「生徒」「先生」「先輩」「自分」を含む原文では、「自分は一人の先生が30人くらいの生徒に行うのが普通だと思っているので、だいぶ違う。」など、環境の変化に戸惑う様子が述べられていたり、「年下の子の面倒を見ることが、自分は得意なのではと思うようになった。」「自分を出せるようになった。」「嬉しかったことは、大人しいタイプの同じ学年のクラスメイトが、自分がいたことで喋れるようになった。」など、自分自身の変化や気づきについて述べられていたりした。

### ③03「クラスメイト」を含むグループ『特別支援学級の良し悪し』

03「クラスメイト」を含むグループの原文では、「クラスメイト」「良い」等の関連があった。

「クラスメイト」「良い」を含む原文では、「同じクラスメイトに嫉妬をされて嫌がらせのようなことをされたことがあったが、担任の先生に聞いてもらったりした。」「中学校から特別支援学級に入り、6月くらいから慣れてきて特別支援学級が良いなと思い始めた。クラスメイトと一緒にいろいろなことをやって楽しくなった。」「良い面もあったけど、悪い面もあった。」「特別支援学校に入学した後は、変えて良かった、変えなければ良かったということはなくどちらでもない気持ち。」など、学びの場を変更したことに対して、仲間との関わり等についての思いが述べられていた。

#### ④04「特別支援学校」を含むグループ『特別支援学校での学びと家庭学習』

04「特別支援学校」を含むグループの原文では、「特別支援学校」「小学校」「厳しい」「土日」の関連があった。

「特別支援学校」「小学校」「土日」「厳しい」を含む原文では、「小学校の通常の学級ほどではないけど、特別支援学校では理解が早い方だったので放置されていた。」「特別支援学校はやることが限られている。部活動も、レクリエーションもあまりない、希望が通らない、校則が厳しい。」など、特別支援学級での学びについて述べられていた。

また、「小学校時代の勉強については、父親から算数を土日に教わっていた。」「とても厳しく土日が来るのが嫌だった。」など、小学校時代の家庭学習等について述べられていた。

#### ⑤05「通常の学級」を含むグループ『自己認識の変化』

05「通常の学級」を含むグループの原文では、「入学」「多い」「気持ち」「通常の学級」の関連があった

「入学」「気持ち」「多い」「通常の学級」を含む原文では、「通常の学級に居続けても、自分が変わらなかったと思う。」「先輩に理不尽に殴られたことで、自分自身が荒れていた時に、みんながどういう気持ちだったか気づくことができた。そこから、ある程度気持ちをコントロールすることができるようになった。」など、学びの場変更後の分の気持ちと周囲の人の気持ちについての認識の変化等について述べられていた。

#### ⑥06「学級」を含むグループ『学びの場変更後の仲間』

06「学級」を含むグループの原文では、「学級」「友達」「少人数」の関連があった。

「学級」「友達」「少人数」を含む原文では、「少人数の学級だったので、友達ができた。」「特別支援学校に小学校からいた生徒が多かったため、なかなか友達が出来なかったが、少しずつ仲良くなれた。」など、友達ができたことについて述べられていた。

## IV. 考 察

本調査は、特別な支援を必要とする子ども、保護者が、就学先を検討した際の状況や思いを明らかにするため、両者を対象としたインタビュー調査等を行った。

保護者へのインタビュー調査では、子どもの学びの場を特別支援学級や特別支援学校への就学への検討のきっかけや経緯について話を聞くことができた。その後の就学先決定の手続きの際には、不安や葛藤がありながらも、子どもに安心した環境で学んでほしいという思いで学びの場を決定してきたことなどを聞くことができた。

生徒へのアンケート、インタビュー調査では、特別支援学級や特別支援学校に在籍する前後の楽しさや辛さ、見学や体験に関すること、学びの場への更なるニーズ、通常の学級の仲間との関りについてなどを聞くことができた。

これらのインタビュー調査結果やアンケート調査結果より、より良い就学先決定の方法について6点の提言を行いたい。

### 1. 保護者への具体的、実地的な情報提供を行う

保護者の学びの場変更前共起ネットワーク「01 具体的」を含むグループでは、『具体的な情報の必要性』について述べられており、「担任の先生は保護者に寄り添っていた。」とする一方で、「担任の先生ははっきりと言わないことが多かったので、子どもの様子を具体的に教えてほしかった。」など、具体的な子どもの様子を知りたいと思っているのではないかと考えられる。また、学びの場の変更先について「特別支援学級の様子などは自分から動いて情報を得た。」「就学先の変更についての具体的な情報は特になかった。就学先の予定の中学校の特別支援学級に聞くようにと言われた。」などと述べており、所属していた学校から十分な情報提供がなかったのではないかと考えられる。

知りたい情報として、「進路先となる学校の詳しい情報まで教えてほしい。保護者の協力の度合いなども。」「特別な支援が必要な子どもの就職先の情報について知りたかった。」など、進学先の候補となる学びの場の学習内容や、進路先、就職先について述べられていた。学びの場を決定する際にも、候補となる学びの場の活動だけでなく、卒業後の生活につながる具体的な情報を求めていると考えられる。

情報提供の際の配慮点として、「最初は、通級による指導の先生、相談員の先生、放課後デイサービスの先生などが何をいっているのかわからなかった。」など、保護者の気持ちの段階に沿った情報提供でなければ、その情報を受け入れることが難しいのではないかと考えられる。保護者の様子を丁寧に観察しながら、子どもの学校での様子や学びの場に関する情報を、早い段階から少しずつ伝えていくことが必要であると考えられる。

## 2. 子どもへ学びの場を変更することについて理解できる説明を行う

生徒を対象としたアンケート調査より、学びの場変更前の気持ちとして、「学びの場を変えたくなかった」と回答した生徒が 52% (n=23) と半数以上であった。その理由として、「体験はしたけれど、特別支援学級について詳しく知らなかった」「今後のことがわからなくて不安だった」「特別支援学級に良いイメージがなかった」等、特別支援学級等の学びの場の実際について、よく知らなかったと考えられる。

生徒を対象としたインタビュー調査においても、「特別支援学級の見学はしたけれど、細かな説明は受けずに、『特別支援学級に行くよ。』『はい。』という感じで。」「特別支援学級の仲間は、どうせわけがわからないことを言っているのではと思った。」と述べていることから、学びの場についての詳細を理解しないまま学びの場を変更している可能性が考えられる。

生徒を対象としたインタビュー調査において、学びの場の変更後の気持ちの共起ネットワーク「01 楽しい」を含むグループでは、『学びの場変更後の楽しさ』が述べられている。「特別支援学級は優しい子達がたくさんいる。いろいろな経験もできた。」「いろいろな障害をもっている子がいて、人間関係が難しいと思った。」「特別支援学級では、3 学年で一緒に活動をしていたので、作業学習の時間などに、後輩に仕事のやり方を教えることがあった。」などの回答があり、生徒の目線から捉えた学びの場変更後の仲間との関わりや特別支援学級及び特別支援学校における活動の様子について、学びの場の変更を検討している児童生徒に伝えることも有効かと考える。また、体験や見学等も学びの場の実際を知るためには有効な方法の一つと考える。

また、保護者を対象としたインタビュー調査より、「特別支援学級に小学校 1 年生から入れたことを本人に謝っていて、今も後悔と罪悪感が残っている。」「小学校 6 年生の時に通常の学級に在籍しながら、特別支援学級への体験を行った。本人は納得していない様子であった。」と述べていることから、本人が学びの場について理解するのみならず、納得した上で選択することが重要であると考えられる。

## 3. 子どもと通常の学級の仲間との関わりについて確認を行う

生徒を対象としたインタビュー調査より、学びの場変更前の共起ネットワーク「06 辛い」を含むグループでは、『学びの場変更前の辛い気持ち』について述べられており、「(勉強をしなくてよいという) 辛い思いをしなくて嬉しい気持ちと、今まで一緒にいた友達ともう話せない悲しい気持ちで複雑だった。」と、仲間との別れを辛く思う気持ちについて述べられていた。

一方、同じく生徒を対象としたインタビュー調査より、「小学校でイジメがあったので、環境を変えて新しくしたかった。」「同級生になれなれしいと言われて、徐々にギス

ギスし始めた。」など、通常の学級の仲間との関わりの難しさを感じ、新たな人間関係を構築したいという思いが表れていた。

学びの場の変更後、通常の学級の仲間との関わりについて、事前に子どもと相談を行った上で交流及び共同学習を実践することで、安心して学びの場の選択を行えるのではないかと考える。

#### 4. 子ども、保護者に悩みを共有できる仲間の存在を伝える

保護者を対象としたインタビュー調査より、「特別支援学級に変更を検討する時は戸惑った。」「母親としては子どもの異常を感じていたが、グレーゾーンであった。相談がずっと出来ずにいた。」など保護者や子どもが学びの場を特別支援学級や特別支援学校に決める際には、不安や孤独感を抱えていることが明らかになった。

また、保護者同士のつながりについて「親の方も、自分の家族だけでないんだと。その親の子ども達が支援級に行っていることがわかれば話すんだけど。言わないから。その場で知り合いがいて、話すことができた。情報交換しましょうねと話すごうできた。一人じゃない、自分たちだけじゃないとわかった。こんなたくさんいるんだと。親はどうしても言いたくない。会社にも言いたくない。みんなが集まる場があれば、気づいたり、親御さん同士で話したりできる。同じ症状のある子ども達だから、伝えやすい。こんなにいるんだという気づきを。」と述べられていた。保護者同士で情報交換をする場を提供することも、保護者の不安や孤独な気持ちを軽減し、安心感につながる取組の1つと考える。

また、生徒を対象としたインタビュー調査より、学びの場を変更した後「自分と同じような思いをしている仲間がいるのだと気づけて気が楽になった。」と述べられている。就学先や学びの場を検討するにあたって、子どもも保護者も仲間の存在を知ることにより安心して選択できるのではないかと考える。

#### 5. 乳幼児期から切れ目ない支援を行う

保護者へのインタビュー調査内容「(1)子どもの学びの場について」では、小学校1年生時の子どもの学びの場が通常の学級である場合、就学前に、医療、幼児言語教室、療育などの支援を受けていた。保護者を対象としたインタビュー調査より、学びの場変更後の共起ネットワーク「03 小学校」を含むグループでは、『切れ目ない支援について』述べられており、「就学前は本人のペースで行っていて保育園の先生は一生懸命引継ぎの資料を作ってくれたが、小学校の先生なりのやり方がある。」「就学前のやり方と小学校ではやり方が違うので小学校の担任の先生は就学前のことを聞きたくないらしい。」等、引継ぎが上手く行われていない現状が伺える。「小学校から中学校の引継ぎ

もなかったのでは。」との意見もあることから、共通の書式で作成されたサポートファイルや個別の指導計画等を活用した早期からの情報共有、引継ぎを行うことが、子どもが新たな学びの場でスムーズに対応できる支援を行うために大変重要であると考え

## 6. 通級による指導の担当教師、特別支援教育コーディネーターが担任等との連携を深める

5で述べた『切れ目ない支援について』のキーパーソンとして、通級による指導の教師、特別支援教育コーディネーターの存在があげられる。1において前述した通り、保護者を対象としたインタビュー調査より、保護者は担任の先生の寄り添いを感じている一方、「学びの場の具体的な情報を得ることが難しかった。」と述べていた。通常の学級の担任が、保護者や子どもへ特別支援教育や就学先に関する具体的で詳しい情報を伝えることが難しい場合は、通級による指導の担当教師、特別支援教育コーディネーター等が教育相談に同席したり、担任に情報を提供したりするなどの連携が必要であると考えられる。同時に、特定の教師に依存するのではなく、管理職のリーダーシップの下、チーム学校として子どもと保護者を支える組織づくりも大切であると考え

## 7. まとめ

本研究において、就学先を決定する際の保護者、子どもは、期待を持ちながらも不安や孤独感を抱いて就学先を決定していた。しかし、特別支援学級や特別支援学校に在籍したことでの充実感や成長なども多く語られていた。子ども、保護者、情報を提供する教員に対して、個に応じた支援を行う学びの場の情報をもっと知ってもらうなど、具体的で丁寧な情報提供により、不安の多くが改善されるのではと考えられる。

また、就学後は、良い面もありながらも、後悔していることもある。これらの、子どもや保護者の経験談を、これから就学先を決定する子どもや保護者に伝えることこそが、具体的な情報であり、より安心した就学先決定に向けて重要ではないかと考える。

## <謝辞>

本調査の実施にあたり、関係諸機関や学校等の多数の方々の御協力をいただきました。また、生徒の皆様や保護者の皆様には調査に直接御協力いただきました。心より御礼を申し上げます。

(杉山奈実子)